



甲南大学 文学部

2023
年度

活動のまとめ



「ぶんたすプロジェクト」をはじめ5学科の活気あふれる1年間の活動をご報告します。「ぶんたすプロジェクト」とは「ぶん」学部の多様な学びを「たす」プロジェクトです。

さらに詳しい内容を知りたい時には、二次元バーコードから活動の詳細が見られます。ぜひアクセスしてみてください。

1



文学部

Faculty of Letters

他学科の分野で学べる
「リンク・プログラム」

2022年度から始まった「リンク・プログラム」。自学科の専門科目とは別に、他学科の単位群を受講することで修了認定が受けられる制度です。文学部の学生であれば誰でも認定を目指すことができます。様々なことに興味を持っている人は多いと思います。是非、幅広い知識を身につけてください。(修了すれば、修了認定書と素敵な記念品が貰えます。)

挑戦してみよう！



▲詳しくはこちら



2



文学部

Faculty of Letters

甲南映画祭

2023年11月30日～12月8日

甲南大学映画祭、第1回のテーマは「大阪万博」。2025年万博を前に、1970年万博にまつわる映画の上映と、トークイベントを実施。開幕特別企画として、齋藤元彦兵庫県知事をお迎えし、万博と映画をめぐって学生との座談会も開催。2025年万博で上映する新作映画の予告編や、1970年万博で公開された貴重な作品も上映しました。

兵庫県知事と
万博について
論じあう学生たち

▲詳しくはこちら

3

2023年7月10日



日本語日本文学科

Department of Japanese Literature and Language

教育実習報告会を行いました

国語の中学校教諭、高等学校教諭を目指す4年生が、3週間の教育実習で学んだことや反省点、先輩に伝えたいことなどについて報告をしました。教職課程を履修する下級生からは、授業に関する質問だけでなく、部活への参加の仕方、学活や給食の指導方法など教育実習全般にわたってたくさんの質問が出ました。報告会を通し、自らの教育実習の体験について客観的に振り返ることができました。

4年生からのアドバイスに
耳を傾ける学生たち



▲詳しくはこちら



4

2023年8月22日～30日



日本語日本文学科

Department of Japanese Literature and Language

台湾東海大学での日本語教育実習

日本語で
フードロスについて
考えよう!

甲南大学日本語教員養成課程では毎年8月に、台湾台中市にある東海大学で海外日本語教育実習を実施しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で3年間渡航できませんでしたが、2023年度はようやく台湾での現地実習を再開。東海大学・愛知県立大学の実習生たちとチームを組んで「日本語を使って考える」授業を計画し実践しました。



▲詳しくはこちら



5

2023年9月21日



日本語日本文学科

Department of Japanese Literature and Language

ゼミでの文学館見学

近現代文学について学ぶ塚本ゼミでは、授業で谷崎潤一郎の小説について読書会をした後、9月に芦屋市にある谷崎潤一郎記念館を見学しました。谷崎が書いた原稿や、実際に着ていた衣服、使用していた机などを見ると、活字を読むだけでは伝わらない作家の筆遣いや身体を生々しく感じることができ、貴重な体験となりました。

谷崎潤一郎記念館での
学生たち



6

2023年11月30日～12月8日



日本語日本文学科

Department of Japanese Literature and Language

日文学生による 〈甲南映画祭〉での活動

安部公房の
脚本映画を復活!

文学部で企画した〈甲南映画祭〉で、『1日240時間』を上映しました。作家の安部公房が脚本を書き、1970年の大阪万博で披露された作品を、デジタル技術で復活させたものです。多くの映画ファンが訪れた会場では、学生スタッフが受付などの運営を担ったほか、万博をイメージしたデザインも制作しました。(日本語日本文学科3年生Mさんの作品)



▲詳しくはこちら



7



英語英米文学科

Department of English Literature and Language

アメリカから研究者を招き、
研究会を開催しました

2023年11月21日

英語英米文学科は日本アフリカ学会関西支部との共催で、アメリカ合衆国からヨハン・アント教授を招き、南アフリカの歴史に焦点を当てた講演会を開催しました。アント先生の講演は、言語による民族の分断を論じるものであり、異なる文化や専門分野からの参加者も交え、活発な議論がなされました。

講演者のアント先生



▲詳しくはこちら

8



英語英米文学科

Department of English Literature and Language

愛知学院大学と『ハリー・ポッター』を
巡って合同ゼミをおこないました

2023年12月2日

英語英米文学科の岩井ゼミでは、12月2日に愛知学院大学文学部・英語英米文化学科の星ゼミと合同ゼミをおこないました。今年のテーマは『Harry Potter and the Prisoner of Azkaban』（『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』）。それぞれのゼミから3グループずつ、計6グループの発表がおこなわれ、質疑応答とその後の親睦会で大いに盛り上がりしました！

名古屋城にも
行きました！



▲詳しくはこちら

9



英語英米文学科

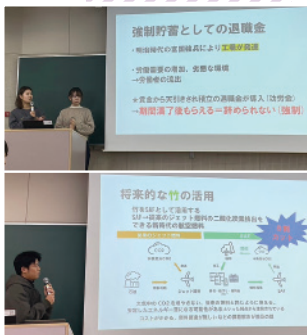
Department of English Literature and Language

合同ゼミ—文学部・井野瀬ゼミ×
経済学部・永廣ゼミ

2023年12月13日

普段は学部や学科を「学びの単位」としている学生たちが、互いの学びの違いを意識しながら、自由に質疑応答や意見を交わし、自分にあるもの/ないものを見つめ直す場。それが経済学部との合同ゼミです。12回目を迎える今年度、井野瀬ゼミからは「歴史から考えるこれからの退職金」と「放置竹林の再活用を考える」の2本が報告され、その後活発な議論が展開されました。

報告する
井野瀬ゼミの学生たち



▲詳しくはこちら

10



英語英米文学科

Department of English Literature and Language

「英語サミット2023」を
開催しました

2023年12月13日

毎年恒例の「英語サミット」を昨年末に開催しました。英語英米文学科の学生団体KEALLが主催するメインイベントです。前半は元KEALL会長であり、Gakkenに勤務されている石丸裕太さんによる講演、後半はクラス対抗英語クイズ大会を行いました。英語を学ぶことの有用性を再認識するイベントとなりました。

講演を真剣に
聞く学生たち



▲詳しくはこちら

11



社会学科

Department of Sociology

「どこでもプライド・キャラバン」を
開催しました!

2023年4月26日

「プライドセンター大阪」(大阪の
天満橋にある常設LGBTQセン
ター)の機能を全国各地に届ける
プロジェクト「どこでもプライド・
キャラバン」を開催しました。ス
タッフの方々からお話を聞いたり、
「プログレス・プライドフラッグ
をつくろう!」というワークショップ
を行ったり、ろう者の映画監督今
井ミカさんの作品『ジンジャーミ
ルク』を鑑賞しました。

虹色に彩られた
図書館の入口



▲詳しくはこちら



12



社会学科

Department of Sociology

総合型地域スポーツクラブ「飛騨シュレ」での
現地調査 & リーフレット作成

2023年6月16日~17日

高台にある
神岡城から
町について学ぶ

飛騨シュレとは、岐阜県飛騨市
神岡町を中心に活動している総合
型地域スポーツクラブのことです。
この団体は、もともとキッズテニ
スの活動からスタートし、現在はス
ポーツ庁などとも連携をしながら
幅広い活動を展開しています。1泊
2日で現地調査を実施し、その内容
をリーフレットにまとめ、「スポーツ
とジェンダー
学会」第22回
大会で配布し
ました。



▲詳しくはこちら

13



社会学科

Department of Sociology

ゲストトーク「男性社員1ヶ月以上の
育児休業完全取得」を達成した積水ハウス

2023年12月22日

男性社員の育児休業推進の先駆
的な取り組みを進める積水ハウ
スの方々から、1ヶ月取得100%
達成のための職場の意識改革の
工夫や、実際に取得することによ
る職場と家庭での変化について
お話がありました。就職活動を
目前に控えた学生たちからは、取
りたがらない人の有無、育児終了
後の家事・育児の様子などの質問
が出され、活発なディスカッション
になりました。

育児取得の体験談に
聞き入る学生たち



▲詳しくはこちら



14



社会学科

Department of Sociology

「赤ちゃん先生」を通して学ぶ子育て、
パートナーシップ、キャリア

2023年12月6日、20日

2024年1月10日

自分たちだけで
子どもたちの
世話に奮闘する
学生たち

ママの働き方応援隊神戸東校に
よる「赤ちゃん先生」(全3回)を開
催しました。1歳から3歳の子ど
まさんとお母さん4組と少人数の学
生が、2週間ごととほぼ1ヶ月にわ
たって、一緒に遊びやお世話の体
験をし、お母さんから出産、子育
て、夫婦の関係、キャリアの話を受
け、表面的に見るだけではできな
い体験となりました。ある程度関
係を築けた3週目は、お母さんと
別室での活動に学生たちが奮闘
していました。



▲詳しくはこちら

15



2023年11月17日・18日

人間科学科

Department of Human Sciences

体験して学ぶアグロエコロジー
(丹波市フィールドワーク)

食の安全への関心や環境意識の高まりから、有機農業に興味を持つ若者が増えています。西ゼミでは、今年のテーマに農業を選び、11月に丹波市でのフィールドワークを実施しました。1日目は丹波での有機農業の歴史や取り組みについて学び、2日目は農業体験をしたあと、無農薬野菜を使った料理をいただきながら生産者の方と議論しました。

青空のもと、
有機タマネギの
植え付けに挑戦しました



▲詳しくはこちら



16



2023年12月8日

人間科学科

Department of Human Sciences

雑談5分でコーヒー無料
「雑談・屋台カフェ」開催!

話したことなかった
先生や他学部
の学生と気軽にしゃべり

服部ゼミでは、人間科学科の大澤ゼミ、社会学科の阿部ゼミ、学生相談室と合同で、「雑談・屋台カフェ」の取り組みを始めました。月1回程度、不定期に屋台カフェを運営して、5分間の雑談と引き換えに無料でコーヒーを提供します。普段あまり話をする機会がない様々な立場の人が出会い、多様な価値観に触れる場所を作ることを目指しています。



▲詳しくはこちら



17



2023年度通年授業

人間科学科

Department of Human Sciences

小学校での学習支援の
ボランティア活動

「心理地域援助」という通年の授業では、小中学校で学習をサポートする教育支援と子育て支援の活動にボランティアで参加できます。今年度の教育支援は地域の小学校で、学生たちが発達心理学や教育・学校心理学などの授業で学んだ知識を基に、子どもたちを実際に観察しながら、それぞれの発達に合わせた学習のサポート計画を立てて実践しました。

子どもたちにとっては、
もう1人の先生です。



▲詳しくはこちら



18



2024年1月4日

人間科学科

Department of Human Sciences

パフォーマンスカフェ、土偶づくり、展望室。
アート活動についてお話を伺いました。

赤ちゃんも参加しました

西尾ゼミではこどもの発達と表現に関する研究を行っています。独自のアプローチで体験型の作品を制作する「パフォーマンスプロジェクト 居間theater」の稲継さん、宮武さんに、アートだけでなく様々な分野の専門家と共同で場を作る活動についてお話を伺いました。子どもと子育てする人に向けた場づくりについて考えるきっかけになりました。



▲詳しくはこちら



19

2023年9月24日・2024年2月25日



歴史文化学科

Department of History and Culture

「歴史総合・地理総合研究会(第3回・第4回)を開催―地歴教育の高大連携を考える―」

今年度の「歴史総合・地理総合研究会」では、教職を目指す学部生、教職課程の教員、甲南高校や近隣の高校の先生にもご参加いただき、高校の「歴史総合」にどう取り組むか、高校と大学との連携をどう進めていくかを教育現場から一緒に考えました。教員に採用が決まった学部生が発表する機会もあり、活発な議論がなされました。

歴史や地理を教える
「面白さ」を
学生と一緒に
議論する



▲詳しくはこちら



20

2023年12月10日



歴史文化学科

Department of History and Culture

「1年生の基礎演習IIで生野銀山へのフィールドトリップを実施しました」

1年生全員でのフィールドトリップ。今年の行き先は兵庫県朝来市の史跡生野銀山でした。実際にフィールドに出て、自分の目で見て足で歩いて体感してみること、歴史遺産・文化遺産を歴史学・地理学・民俗学などさまざまな視点で眺め、その魅力を捉え直す機会になりました。

フィールドワークを通して
歴史的・文化的遺産の
魅力を再発見



▲詳しくはこちら



21

通年



歴史文化学科

Department of History and Culture

「歴らぼ」(歴史文化らぼ)で
学生が主体的な学びを実践中

「歴らぼ」(歴史文化らぼ)とは、歴史や文化に関わる事柄について学生が主体となってグループを組んで探究を行っている学科独自の取り組みです。古文書や地図、旅など、多彩なテーマのグループが存在。学生たちが自分の好きなことを存分に掘り下げ、ときに試行錯誤しながら果敢にチャレンジする――それが「歴らぼ」なのです。

学生の「好き」を
共に掘り下げる



▲詳しくはこちら



22

通年



歴史文化学科

Department of History and Culture

歴史文化学科のいまを知る
「歴らぼ通信」と「歴らぼのWEBサイト」

学科の魅力が詰まった
「歴らぼ通信」は
10号館5階で配付中

「歴らぼのWEBサイト」では学科の様々な活動を紹介中。講義やゼミの内容、「歴らぼ」活動、学生や教員の取り組みなど、多くの記事を掲載しています。また、それらは「歴らぼ通信」として定期的に発行しており、2024年3月現在で22号となりました。記事は随時追加されるので、歴史のいまを知ることができます。みなさん、ぜひご覧ください！



▲詳しくはこちら